

住む

出光興産

地域課題の解決パートナー
移動と資源循環

移動課題の解決・超小型EV

当社は「移動」に関わる地域課題に取り組んでいる。地方圏において公共交通事業者が不採算路線から撤退するなど、公共交通のサービスレベルが低下し、「移動」そのものが



社会課題となつている点に着目したためである。そのソリューションとして、岐阜県・千葉県において、自治体・地元パートナー(特約販売店)と連携し、市民・観光客・交通弱者の方々へ超小型EVを提供するカーシェアリング事業の実証を重ねてきた。

実証の結果、必要最小限の機能を備えたモビリティと、デジタル技術を活用した利用の仕組み、また法人と個人ユースを組み合わせた新たな利用モデルを提供することで、「移動」に関わる地域課題に対する有効な解決策を提供可能と判断した。

そこで、当社は、タジマモーターコーポレーションと、超小型EVなどの次世代モビリティおよびサービスの開発を行う会社「出光タジマEV」を2021年4月に設立する。

同社はまず、2020年9月に国土交通省が発表した超小型モビリティの新規格に準拠した新たなカテゴリーの超小型EVを開発する。当該EVは既存の軽自動車よりも一回り小さく、最高速度60km/h以下の低速で走行することから、運転の不安を感じている高齢者層

や運転に不慣れな層も安心して利用出来る。さらに、シェアリングや定額で利用可能なサブスクリプションや、変化する利用者のニーズに合わせたMaasを開発し、この超小型EVと合わせて、全国6400カ所の系列SNSネットワークにて提供する。

地域のエネルギーインフラの強靱化・資源循環社会の構築に向けて

将来的には、系列サービスステーションで展開している再生可能電力販売と超小型EVを組み合わせた新たなサービスの開発、個々の車両を蓄電池と見立てた分散型エネルギーシステムの構築、車両・バッテリーのリサイクルシステムなどを通じ、「移動」に関する社会課題解決に加え、地域のエネルギーインフラの強靱化・資源循環社会の構築に取り組む。現在、鹿児島県種子島で低炭素社会の実現に向けた「スマートエコアイランド種子島構想」が立ち上がり、当社が参画している。大学・企業・自治体との共創により地域資源を活用した持続可能な社会を実現するという構想である。当社が蓄積してきたノウハウやリソースを結集し、地域との共創を模索した結果、モビリティとエネルギーの資源循環の観点で種子島が抱える地域課題に対する10のソリューションを立案した。実行を通じて、新しい循環型の社会モデルを構築し、同様な課題を抱える地域に展開することで、全国の地域創生に貢献していく。